

## 編 集 後 記

平成 19 年度三重看護学誌（MNJ）は、看護学科設置 10 年目を迎え、記念すべき第 10 巻を発刊することができました。ご執筆いただいた先生方、また、お忙しい中査読委員を引き受けていただいた先生方のご協力とご支援の賜であり、編集委員一同心から厚く御礼申し上げます。

今年度は、政治の世界では不正や汚職、年金問題、めまぐるしい政権交代に驚かされ、私たちの身近な生活では、次々と食品の安全に関する摘発が続き、原油高騰でじりじりと家計が圧迫されつつあります。いろいろな意味で、今まで水面下に隠されていたことが明るみに出て、私たちを驚かせた年と言えるかも知れません。このような年の運勢を MNJ 編集委員会では「物事を一新する」良い機会ととらえ、編集活動にもメリハリをつけて、テンポ良く作業を終了することができました。

私は、編集委員として 2 年間の経験の中で、MNJ が看護学科教員一人一人の力によって支えられていることを痛感いたしました。これまで 10 年間継続して発刊できた背景には、多くの看護学科教員の努力と支援があったと思うと、これからも学科全体で三重看護学誌を守り、発展させていかねばならないと気持ちを新たにいたしました。

次年度からは、この 10 年間の歩みを基礎として、さらに 10 年先を視野に入れた活動方針を探っていけたらと思います。三重看護学誌が、看護学科教員および学生の研究成果発表の場として、また、学外研究者との連携を図り、さらに価値を高めていけるよう今後ともご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

（文責：浦川加代子）